

(130220 version)

第5回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー 「帰還—かえるのか、とどまるのか—」

2013年3月2、3日（土・日）

伊達市保原市民センター（024-575-4166, http://9199.jp/phone_page/06971137/）

発起人

国際放射線防護委員会（ICRP）

協力と援助

伊達市、放射線安全フォーラム、福島のエートス、福島県立医科大学
ベラルーシ緊急事態省チェルノブイル部、
経済協力開発機構・放射線防護公衆衛生委員会、フランス放射線防護・核安全研究所、
ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全局

同時通訳

ディプロマット社（平野加奈江、町田公代）

経過と目的

国際放射線防護委員会（ICRP）は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作りだし、その手段を提供する責任があることを強調している。

この観点に基づき、ICRPは、2011年秋に会合を開催し、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表などが、福島原発事故の影響をうけた地域の長期の回復に対する挑戦についてその方策をさぐるためのダイアログセミナーを行った。

第一回のダイアログセミナーは、2011年11月26日と27日の両日にわたり、福島県庁の会議室で開催された。ここで参加者は、安全な生活条件と高い品質の作物の生産、そして外部地域との連帯を介した地域コミュニティーの再生の重要性を確認した。さらに参加者は、人々が事故の状況を理解しさらに評価することを通じて影響をうけた地域での生活からうける放射線被曝を低減するために必要な放射線防護の文化を醸成することの重要性を確認した。

第二回の伊達ダイアログセミナーは、2012年2月25日と26日の両日にわたり、伊達市保原市民センターと保原スカイパレスで開催された。この会合の目的は、福島放射線の状況の改善について討論し、その障害になる問題点を明らかにし、市民の生活を改善する道をさぐることであった。参加者は、人々の心の問題、とりわけ住民が尊厳を保ちうることの重要性、そして地域、国内、国際を通じた連帯を強調した。参加者は、住民がどこでどのように被曝したかなどを人々が知るため、放射線の状況についてさらに詳細な情報を必要としていることを、認識した。

第三回ダイアログセミナー（2012年7月7日・8日、伊達市）では、2012年夏の始めにおける放射線状況を論じ、これを改善するためにステークホルダーの方々の最近の経験の共有に努めた。とりわけ困難な問題である食品の汚染について、その複雑な状況を

理解し、異なる、また時には対立する利害関係をもつステークホルダーとともに、状況改善の道を探った。

第四回ダイアログセミナー（2012年11月10日・11日、伊達市）は、これまで3回のダイアログを通して得られた状況判断を踏まえて、地域の次代をになう子供の教育を取り上げた。二日にわたる会合では、まずノルウェーとベラルーシにおけるチェルノブイル事故の教訓を共有した。そして事故以来1年半にわたって続けられてきた福島教育現場でのいろいろな取組みについて知識を共有した。ついでこれらを踏まえて、対話を通じて問題点の発掘を行い、今後の福島での教育の方向を探った。

第五回ダイアログセミナーでは、「帰還」を取り上げる。帰還についての決断は、単に放射線の状況のみではなく、長期汚染をこうむった地域における生活の全ての状況を考慮して行われる。この問題には、帰還または帰らない、地域に留まるまたは地域を離れる、の複数の選択肢がある一方で、どの選択肢にも困難が伴う。また、決めかねている間に、状況は刻々と変化していく。この複雑で困難な問題について、幅広い関係者、組織、住民、教師、医師、行政、チェルノブイル経験者が一堂に会し、立場の違いを越えて、汚染地域の困難な状況に前向きに立ち向かうために共有すべき、また共有しうる価値をさぐる。

会合の進め方

同時通訳：英語と日本語の同時通訳をイヤホンで聞くことができます。

2種類のセッション

午前のセッション：共有すべき事実関係についての発表です。

午後のセッション：帰還についての関係者の対話を行います。

会合関連サイト

ICRP 通信：<http://icrp-tsushin.jp/>

福島のエトス：<http://ethos-fukushima.blogspot.jp/>

会場アクセス

阿武隈急行 福島駅発 8:32 → 保原駅着 8:55

駅からマイクロバスの送迎あり

車でおいでの方は、保原中央公民館においでください。（市民センターは、すぐ横）

※3日（日）は、伊達市の伝統行事「保原つつこ引きまつり」があり、駐車場の制限があります。

プログラム

第1日目 3月 2日 (土)

9:10-9:50 開会

全体司会：ジャック・ロシヤール、多田順一郎

仁志田昇司伊達市長、ジャック・ロシヤール氏による歓迎の挨拶
国内・海外参加者による自己紹介（各自1分で名前、専門、経験）

9:50-11:00 セッション1 帰還の条件とインフラストラクチャー

現状と問題（20分）

早川正也（福島民放）

放射線線量：内部被ばくと外部被ばく（30分）

早野龍五（東京大学）

保健医療インフラ（20分）

小早川義貴（国立病院機構災害医療センター）

11:00-11:10 コーヒーブレイク

11:10-12:10 セッション1 帰還の条件とインフラストラクチャー

教育インフラ（20分）

伊藤律子（福島第四小学校）

生活インフラ：生活必需品買い物（20分）

大和田清司（川内村商工会）

避難者受け入れコミュニティーの状況（20分）

小宅幸一（いわき市）

12:10-13:00 昼食

13:00-14:00 セッション3 チェルノブイルでの過去の経験

ノルウェーセシウム汚染地域に住むサーミの人々（15分）

ラブランス・スクテルード（ノルウェー放射線防護庁）

セシウム汚染地域の生活のビデオ紹介（30分）

セシウム汚染地のサーミからのメッセージ（15分）

ナジラ・ジョマ（ノルウェー、トナカイ農家）

14:00-16:00 セッション2 地域社会の復活にむけての対話（ステップ1）

司会：ジャック・ロシヤール

報告担当：デボラ・オウグトン、テリー・シュナイダー

ステップ1の対話：帰還する・しない、住み続ける・離れる、の理由を明らかに

- 1) 地域にいることの問題はなにか？
- 2) 地域にいたいと思わせる魅力は何か？
- 3) どのような前進があったのか？
- 4) まだ解決していない問題は何か？

5) 地域の将来をどう見るのか？

ステップ1の方法：

討論参加者全員が、帰還や住み続けることへの自らの思いを手短かに述べる。全員が述べ終わった後、それを聞いたうえで、さらに全員がもう一度考えを述べる。誰かが意見を述べているあいだは、それについて議論はしない。すべての意見が終わった後に、報告担当者によるまとめがなされる。

パネル討論参加者

- 大学： 吉田浩子（東北大学）
早野龍五（東京大）
伴信彦（東京医療保健大学）
佐倉統（東京大学）
水野義之（京都女子大学）
- NPO、一般：安東量子（エートス福島、いわき）
遠藤真也（末続ふるさとを守る会）
鈴木健一（南相馬から札幌への避難者、みちのくの会）
村上岳志（新潟への避難者）
秋葉良典（伊達市霊山町小国、愛知県に家族が避難）
大波尚美（伊達市霊山町小国、市内の別地域に避難）
野中俊吉（コープふくしま）
大和田清司（川内村商工会事務局長）
堀井五郎（福島北幹線仮設住宅（双葉）自治会長）
鎌田光利（大玉村仮設住宅（富岡）自治会長）
小宅幸一（いわき市）
- 医療・保健：小早川義貴（国立病院機構災害医療センター）
- 教育： 伊藤律子（福島第四小学校）
勝美五月（伊達市こども支援課）
- 報道： 早川正也（福島民報）
菊池克彦（福島民友）
大森真（テレビュー福島）

16:00 – 16:30 コーヒーブレイク

16:30 – 16:45 報告担当者によるまとめ

16:45 – 17:30 総合討論

17:45 - 20:00: レセプション セレビア・スカイパレス（伊達市保原町）

<http://www.my-skypalace.com/>

第2日 3月 3日(日)

09:10-9:30 開会

司会：ジャック・ロシヤール、多田順一郎
新規参加者の自己紹介（各1分で名前、専門、経験）
第1日目のまとめ

コーヒーブレイクは各自適当にとってください

9:30-10:30 セッション4 帰還の決定：個人の問題と地域の問題

末続とその住民の状況（20分）
遠藤真也（末続ふるさとを守る会。いわき市）
飯舘の状況（20分）
菅野義樹（再生の会、飯舘村）
北海道への県外避難（20分）
鈴木健一（みちのくの会）

10:30-10:40 コーヒーブレイク

10:40-12:00 セッション4 帰還の決定：個人の問題と地域の問題

新潟への県外避難（20分）
村上岳志（新潟）
教育の現場における問題
勝見五月（伊達市）
帰還への思い、住み続ける思い（20分）
成井香苗（福島県臨床心理士会）
さまざまな解決を目指して — リスク問題の展望と判断における多様性（20分）
佐倉統（東京大学）

12:00-13:00 昼食

13:00-13:20 セッション4 帰還の決定：個人の問題と地域の問題（続き）

丸森町筆甫とその住民の状況（20分）
吉澤武志（筆甫まちづくりセンター、丸森町）

13:20-15:20 セッション2 地域社会の復活にむけての対話（ステップ2）

司会：ジャック・ロシヤール
報告担当：デボラ・オウグトン、テリー・シュナイダー
ステップ2の対話：人々が自ら選択を行うのを可能にする条件と方法を明らかにする
1) なにが必要か？
2) どのような情報が必要か？
3) どのような活動がなされているのか？
4) 専門家、地方行政、国に何を期待するのか？
5) 住民の役割は？
ステップ2の方法：ステップ1と同じ

パネル討論参加者

- 大学： 早野龍五（東京大）
伴信彦（東京医療保健大学）
佐倉統（東京大学）
水野義之（京都女子大学）
大場恭子（東京工業大学）
- NPO、一般：安東量子（エートス福島、いわき）
遠藤真也（末続ふるさとを守る会）
鈴木健一（南相馬から札幌に避難、みちのくの会）
村上岳志（新潟）
野中俊吉（コープふくしま）
大和田清司（川内村商工会事務局長）
堀井五郎（福島北幹線仮設住宅（双葉）自治会長）
鎌田光利（大玉村仮設住宅（富岡）自治会長）
- 医療・保健：成井香苗（福島県臨床心理士会東日本大震災プロジェクト）
- 教育： 伊藤律子（福島第四小学校）
勝見五月（伊達市こども支援課）
菅野陽子（伊達市立掛田・月館統括園長）
菅野敬一郎（伊達市立富成小学校 PTA 副会長）
菅野純子（伊達市立富成小学校 PTA 副会長）
- 報道： 早川正也（福島民報）
菊池克彦（福島民友）
大森真（テレビユー福島）

15:20 - 15:50 コーヒーブレイク

15:50 - 16:00 報告担当者によるまとめ

16:00 - 16:30 総合討論

16:30 - 17:30 まとめと勧告

17:30 - 18:00: 閉会

全体のまとめ

テッド・ラゾ（経済開発機構）

閉会の挨拶

ジャック・ロシヤールと仁志田市長